

受 験 番 号

国 語

(100 点 60 分)

(2026 年度 一般入学試験 B)

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子の表紙の受験番号欄に受験番号を書いてください。
複数の受験番号がある場合、受験票に記載されているメイン受験番号を記入してください。
- 3 この問題冊子は表紙を除き、16 ページです。
- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
- 5 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、正しく記入してください。
 - ① 氏 名 欄 漢字氏名を記入してください。
 - ② 科 目 名 欄 「国語」と記入してください。
 - ③ 受験番号欄 受験票に記載されているメイン受験番号を記入し、その下のマーク欄に、正しくマークしてください。
- 6 受験番号が正しく記入されていない場合は、採点されないことがあります。
- 7 解答は、解答用紙の解答マーク欄にマークしてください。
例えば

20

 と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の（例）のように **20 の解答マーク欄の③にマーク**してください。

(例)

	解 答 マ ー ク 欄											
20	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⊖	⊕

解答マーク欄に複数のマークをすると、不正解になります。訂正するときは消しゴムできれいに消して、書き直してください。

- 8 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。
- 9 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行為が見受けられた場合は、監督者が注意します。
 - ③ 不正行為を行った場合は、その時点で受験を取りやめさせ退室させます。

国

語

(
解答
番号

1

5

32

)

第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～問10)に答えなさい。

現在私たちが(注1)オノマトペと見なさない「普通のことば」(一般語)の中には、昔はオノマトペだったものが驚くほどたくさんある。

たとえば、「たたく」「ふく」「すう」という動詞。オノマトペの歴史研究の第一人者である山口仲美によれば、これらの動詞はそれぞれ「タッタ」「フー」「スー」という擬音語をもとに作られた語で、末尾の「く」は古語では動詞化するための接辞だった。同様に、なんと「はたらく」も「ハタハタ」というオノマトペを語源に持つとされる。(1)

動物の名前にもオノマトペ由来のものがとても多い。「カラス」「鶯^{うぐいす}」「ホトトギス」は鳴き声を写す擬音語「カラ」「ウグヒ」「ホトトギ」に鳥であることを示す接辞「ス」がついてできた名前だそうだ。「ヒヨコ」は「ヒヨヒヨ」に「コ」。「コ」はかわいいものにつける接辞である。

これらの事例は、私たちが一般語と認めていることばの多くが、もともと対象の模倣であるオノマトペに由来する可能性をシ^aサ^aする。そう考えれば、1 オノマトペではない、一般語にも音と意味のつながりを感じることが多々あることが納得できる。しかし、オノマトペを効果音のよう^aに、(注2)間投詞的に使うのではなく、モノの名前や動詞として使うために、接辞をつけたり活用させたりして、一般語の形にしてい^aく。すると、オノマトペが持つ²「音で意味を模倣している」という^a。

オノマトペは世界共通とは限らない。むしろ言語固有、あるいは地域固有(つまり方言的)なものが多い。そのため、非母語話者はもとより、同じ言語の話者でも当該の方言を話さない話者にはオノマトペの意味がわからないこともよくある。オノマトペのように対象を模した^aことばでさえ、方言が異なると何を対象にしているのかわからない。この現象はどうして起こるのか?³この問題は、言語の多様性がなぜ、どのように生まれるかを考える上でヒントになりそう^aだ。

「チャコ」「タコ」「グルー」。これらは日本語の方言における、ある動物の名前である。いずれも方言のオノマトペをもとにしている。その動物が何か、わかるだろうか?

答えはネコである。「チャコ」は東北地方の方言で、ネコを呼び寄せるときの舌打ち音、つまり口の中で舌を動かしながら空気を吸い込む音に由来するそう^aだ。それに「かわいいもの」を表す接尾辞「コ」をつけて「チャコ」。山形側では「チャコ」、宮城側では音が変化して「タコ」なのだそう^aだ。(2)

鹿児島県喜界島^{きかいじま}の方言ではネコのことを「グルー」と言う。ネコの喉を鳴らす音から「グルグル」というオノマトペが生じたそう^aだ。この「グルグル」からネコを呼び寄せるときに使う呼び寄せ語「グルグル、グルグル」が生じ、さらに、「グルグル」の重複部分を取り末尾を長音に変化させて、ネコを表す名詞として使うようになったそう^aである。

そもそも共通語の「ネコ」という名詞にも、昔は鳴き声を「ネーネー」と写し、それに「コ」という接辞がついたのが由来という説がある。現代では、ネコの鳴き声を「ニャン」などと写し、幼児語ではネコを「ニャンコ」とも言う。つまり、ネコを象徴し、模倣するのに、鳴き声が使わ

れている。しかし、ネコを模すときに使うのは、甘えるときに発するかわいい鳴き声とは限らないのである。鳴き声のほかにも、「グルグル」という喉の音だったり、ネコを呼ぶときに人が立てる音だったり、ネコを指すオノマトペのもととなるものは複数ありえるのだ。そこに、方言や言語によるオノマトペの違いが生まれるのである。

そもそもオノマトペは対象を写し取っているはずなのに、なぜ言語の間でこんなに多様になってしまうのだろうか。その答えは、オノマトペは絵や絵文字とどう違うかという話と関係している。絵や絵文字は、比較的容易に対象の物事全体を描くことができる。非常口のアイコンのように⁴「デフォルメ」されていても全体の特徴を捉えていれば、対象が何かは誰にでもわかる。(3)

しかし、言語の音(声)は、物事の全体像を真似ることが難しい。目立つ特徴をすくいにとって模倣するのだが、物事の特徴は複数ある場合が多いので、どの特徴をすくいとするかは各言語に選択が⁵「ユダ」ねられる。たとえば、動物を表すときには鳴き声の模倣が選ばれる場合が多いが、先ほどのネコの例のように、鳴き声のほかに、喉を鳴らす音だったり、ネコを呼ぶときの人の舌打ち音が使われる場合もある。これにより、「写し取り方」に多様性が生まれる。

⁵これは手話でも同じで、ネコを表すのに、アメリカ手話では片手の人差し指と親指で髭を一本つまむシ。グサをするのに対して、イギリス手話では両手の五本指で髭をなぞり、日本手話ではネコが顔を洗うように片手のこぶしを頬に当てる。それぞれ、ネコの目立った特徴を写し取っているものの、何をどのように写すかは言語によって異なり、多様なのだ。

さらに、オノマトペは^d「カン」キョウの音をそのまま模倣するのではなく、当該言語の音韻体系の^e「セイ」ヤクを強く受けている。ニワトリの鳴き声は日本語では「コケコッコー」だが、英語では日本語が通常用いない「ドウ」という音を使って「コッカドワードルドゥーcock-a-doodledoo」と写すし、中国語では「グーグーグーgūgūgū」、タミル語では「ロツカラロkokkara-ko-ko」と聞く。(4)

ただ、オノマトペの音と意味のつながりは、母語話者でなければまったく感じられないかというところというわけでもない。オノマトペを一つ言われて、何を指しているかと問われると正解するのは難しいかもしれない。しかし、大股でゆっくり進む動作と足を小股で細かく動かしながら進む動作を見せ、どちらが「ノシノシ」でどちらが「チョコチョコ」かを尋ねる実験のように、対立する概念に対して二つのオノマトペを提示し、どちらのオノマトペがどちらに対応するか尋ねると、⁶その言語を知らない人でも()当てることができる。

多くのオノマトペのアイコン性は、特定の言語コミュニティの中で対象の持つ複数の特徴の中から選ばれ、見出されたものである。だからその言語コミュニティの話者は、そのオノマトペに対して強いアイコン性を感じる。しかしコミュニティの外の人間には、それほどのアイコン性は感じられない。多くの場合、まったく感じないわけではなく、いくつかの候補の中からの選択なら、ランダムよりは高い確率で正答できる。つまり、母語の外のオノマトペには、概してうっすらした音と意味のつながりなら感じることができる。オノマトペでその程度なので、オノマトペでない一般語に感じる(注³) 音象徴はもっと弱い。(5)

(今井むつみ・秋田喜美『言語の本質』による)

(注1) オノマトペ⇨擬音語や擬態語。

(注2) 間投詞⇨英語の「interjection」の訳語。語句の間に投入される言葉。日本語の感動詞に当たる。

(注3) 音象徴(おんしょうちよう) ⇨ある言語体系で、特定の音に特定の意味が結びつくこと。

問1 傍線部a～eのカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号

1

5

〕

a
シサ

1

- ① 地方にサセンされる。
② 犯罪をキョウサする。
③ 書類をシンサする。
④ 作業全体をサハイする。
⑤ 学歴をサショウする。

b
ユダね

2

- ① イキョクを尽くして説明する。
② 問題はイゼンとして未解決だ。
③ イシツ物を届ける。
④ 台風がモウイをふるう。
⑤ イセイ者の能力が問われる。

c
シグサ

3

- ① お金の工面にホンソウする。
② ピアノのバンソウで歌う。
③ 休暇をベッソウで過ごす。
④ 規約のソウアンを練る。
⑤ ドウソウ会の案内が来る。

d カンキョウ

4

- ① 反対を押し切って工事をカンコウする。
② 危険な状況からセイカンする。
③ 情報をコウカンする。
④ 注意をカンキする。
⑤ バスが市内をジュンカンする。

e セイヤク

5

- ① セイダイに祝う。
② チュウセイを誓う。
③ キセイを緩和する。
④ ソセイ乱造の品。
⑤ モウセイを促す。

問2

傍線部1「オノマトペではない、一般語にも音と意味のつながりを感じる」とありますが、そのようなつながりがある一般語の例として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 6〕

① 「ネコ」や「チョコチョコ」

② 「ホトトギス」や「ノシノシ」

③ 「ふく」や「グルグル」

④ 「たたく」や「チャコ」

⑤ 「カラス」や「コケコッコ」

問3 傍線部2『音で意味を模倣している』という（

）。「」の空欄を補うのに最も適当な言葉を、次の①～⑤のうちから一つ

選びなさい。〔解答番号 7〕

- ① 意識が強まってくるのだ
- ② 利点が失われていくのだ
- ③ 感覚が薄らいでいくのだ
- ④ 意図がはっきりしてくるのだ
- ⑤ 意義が意識されてくるのだ

問4 傍線部3「この問題は、言語の多様性がなぜ、どのように生まれるかを考える上でヒントになりそうだ」とありますが、ここでの筆者の考
えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 8〕

- ① 同じ言語を話す人同士でさえ、方言が違えばオノマトペの意味が通じないことがあるのだから、異なる言語を話す人々の間の相互理解には多くの困難が生じるだろう。
- ② オノマトペで用いられる音は言語によって異なっており、その違いがそれぞれの言語の発音の特徴を生み出したと考えられる。
- ③ 話す言語が違っていると、対象を模倣したオノマトペでさえ理解できないことが多いのだから、外国語の文章や会話を理解することが難しいのは当然であろう。
- ④ 同じ対象を模したオノマトペに、表現する者によって違いが生じたことが、様々な異なる言語が生まれた原因であると考えられる。
- ⑤ 同じ対象を表すオノマトペが言語や方言ごとに異なっているという事実は、世界に多くの言語や方言が存在することと、その根源において関連があるかもしれない。

問5 傍線部4「デフォルメ」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 9〕

- ① 手の込んだ形や色彩で表現すること
- ② 対象を他のものになぞらえて表現すること
- ③ 対象の形態を強調、変形して表現すること
- ④ 面白みのある図形を用いて表現すること
- ⑤ もとの形をそのまま忠実に表現すること

問6 傍線部5「これは手話でも同じ」とありますが、どのような点が同じなのですか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 10〕

- ① オノマトペが国によって異なる点
- ② 伝達手段である身振りが身体的表現である点
- ③ 対象の特徴をなるべく忠実に写し取ろうとする点
- ④ 対象のどの特徴に着目するかが言語によって異なる点
- ⑤ オノマトペから一般の語が生まれたという点

問7 傍線部6「その言語を知らない人でも（ ）（ ）当てることができる」の空欄を補うのに最も適当な言葉を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 11〕

- ① 偶然に近い確率で
- ② 必然に近い確率で
- ③ 偶然より高い確率で
- ④ 必然より高い確率で
- ⑤ 当然と言える確率で

問 8 本文から次の文が抜け落ちています。どこに戻すのが最も適当ですか。後群の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 12〕

そこでさらに言語による多様性が生まれる。

- ① (1) ② (2) ③ (3) ④ (4) ⑤ (5)

問 9 本文の内容と合致するものを、次の①～⑥のうちから二つ選びなさい。(解答の順序は問いません。)[解答番号 13・14]

- ① 日本各地のネコを表す方言のなかには、オノマトペから生まれたものと、もともと一般語であるものが見られる。
- ② ある言語の一般語に方言があるように、そのオノマトペにも方言があつて、当該方言の話者でないと、いずれもその意味の把握は困難である。
- ③ 絵や絵文字は、物事の全体像を比較的容易に描くことができるが、個々の特徴を捉えるのには向いていない。
- ④ 現在、一般語と見なされている言葉のほとんどはオノマトペに起源を持つことが、言語の歴史研究によって明らかになっている。
- ⑤ 「ノシノシ」、「チョコチョコ」というオノマトペがそれぞれ何を指しているかを、日本語を知らない人に尋ねても、ほぼ全員が当てることができる。
- ⑥ オノマトペは周囲の音をそれぞれの言語で用いられている音を使って表現するが、それが言語によってオノマトペが異なる原因の一つとなっている。

問 10 本文の標題として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 15〕

- ① オノマトペの多様性と特殊性
- ② オノマトペと言語の多様性
- ③ オノマトペとアイコンの共通性
- ④ 一般語とオノマトペの差異性
- ⑤ オノマトペの世界性と地域性

第2問 次の文章を読んで、後の問い（問1～問11）に答えなさい。

人間の脳には左半球と右半球があつて左半球は理論を、右半球は感覚を司^{つかさど}っているといわれる。この分業する左右の脳に対応して言葉にも左半球と右半球があるのであるのではなからうか。

言葉の左半球とは言葉の意味であり、花という言葉が花を指し示すようにものごとを指し示し説明する働きをする。一つ一つの言葉の意味はほかの言葉と論理的に結び合うことによつてまとまった内容を表わす文章になる。さらにいくつもの文章が集まれば、もっと大きな思想や宇宙観を伝えることも可能になる。A それに対して言葉の右半球とは言葉の風味であり、花という言葉が花を描き出すようにものごとをそのまま浮かび上がらせる働きをする。この言葉の意味を左脳が、言葉の風味を右脳が司っている。

そう考えると甲^か腑^ふに落ちることがいくつもある。

人間は言葉を使つて話したり書いたりしているが、その場合、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを知ろうとするわけであるから、言葉の意味の部分を使っているということになる。（中略）

こうした言葉の意味の部分は人間が社会生活を営むのになくしてはならないものである。もしも言葉の意味が通じなくなれば、社会は大混乱にa 陥るところか存続さえできなくなることは（注1）バベルの塔の話の思い起こすまでもないだろう。

一方、言葉の風味の部分は必ずしも社会生活に必要であるとはいえない。（イ）、社会生活の中に不用意にもちこんだりすれば社会はかえつて混乱する。会話は芝居のせりふのようにキザなものになり、文章は小鳥のさえずりのように通じなくなるだろう。言葉の風味の部分は論理以外のものをたくさん抱えこんでいて、B これが社会生活にとつて邪魔になる。そこで政治、経済、司法、新聞、テレビなどの世界では言葉から風味の部分排除することによつて達意の会話や文章が組み立てられる。これが散文である。

この散文と反対に言葉の風味で成り立つ世界がある。俳句や短歌や詩など、散文に対して韻文と呼ばれるものがC それである。韻文は1 言葉の論理性を超越して、しばしば無視して、ときには蹂躪^{じゅうりゃく}して生まれてくる。つまり韻文とは無意味なものでありナンセンスなものであつて、本来、社会生活にとつては何の役にも立たない。芭蕉があるとき「2 予が（注2）風雅は（ ）のごとし。衆にさかひて、用ふる所なし」（「許六離別の詞」）ともらしたのも、この辺の消息を伝えている。

俳句は韻文の中で最も短いことから容易に想像できるように極端な韻文であつて、言葉の意味を最小限に抑えて、その代わりに言葉の風味を最大限に生かそうとする形式である。そのために俳句には（注3）切れがある。切れによつて俳句は散文の文脈を切り、言葉から意味をb 剥ぎとつて、文脈を首飾りであるとすれば首飾りの糸に相当する意味の連鎖を断ち切ろうとするのである。

人間が生活している世間は理屈でできているから、誰でもふだんは理屈の中にどっぷりと浸かつて暮らしている。誰も理屈に支配される世間の外に別の自由な世界があるうなどとは考えてもみない。

初めて俳句を詠もうとする人がなかなかうまく詠めないのはこの世間の理屈から抜け出すことができないからである。また、すばらしい知性の持ち主がさて俳句を詠むとなるとたちまち金縛りにあつたように言葉の自由を失ってしまったりするものも、その人がすぐれた知性の持ち主であるためにかえって理屈に縛られているということに気づかず、理屈を断ち切れないでいる場合がままある。

広告のコピーや新聞の見出しなども俳句に似ているという人がいる。たしかに使われる言葉の分量をみれば俳句に似ていなくもない。(ロ)、あらためて考えてみるとコピーも見出しも社会的に絶大な影響力をもっている言葉である。(ハ)、意味の言葉でできている、意味を操作している言葉であり、どちらも散文の一形態なのである。

³「そうだ 京都、行こう」というJR東海の広告コピーがある。京都の寺院や庭の写真を大きく引き伸ばしたポスターの片隅に、白い字でこの文句が印刷してある。東京駅のコンコースや電車の車内広告で、まずしつとりとした写真に目が吸い寄せられるやいなや、「そうだ 京都、行こう」というこの文句がじわりと見えてくる。それは満員電車のような大都会で毎日まねながら生活している誰かが心の中でそつとつぶやいたかのような静かな響きをもった言葉である。うまい^乙殺し文句^だなどと思う。

あの文句を自分の中でつぶやいた言葉であるかのように勘違いして京都へ出かけていった人が何十万人も、ことによると何百万人もいるにちがいない。広告主のJR東海は東海道新幹線を運営している企業である。東京の人が「そうだ 京都、行こう」と思えば、東海道新幹線の「のぞみ」か「ひかり」に乗るだろう。(ニ)、広告主のJR東海には膨大な収入がもたらされる。これは本来、無意味であり社会的に何の影響力もない韻文ごときにできる技ではない。散文の力にほかならない。

新聞の記事やテレビのニュースなどで使われている言葉が意味を表わす言葉をつないだ散文であることはいうまでもないが、新聞の見出しもまた意味を表わす言葉である。むしろ見出しは記事よりもさらに純粋な意味の言葉である。ゆめゆめ俳句に似ているなどとは思わない方がいい。もしも見出しに言葉の風味などをもちこんだりすれば、翌日の朝刊からその新聞は無意味な見出しだらけになり、読者の怒りと失笑を買い、発行部数があつという間に落ちこんで社会的な影響力を失うこと、請け合いである。

ここで思い出すのは焼物の本か何かで見た⁴唐津焼の小さな断片である。かつては大きな皿の一部分だったのだろう、しかしながら、今では掌を広げたくらいのはぼ四角の断片になってしまった。(注4)貫乳の細かく入った唐津特有の乳白の地に赤黒い鉄の釉薬^{ゆうやく}で中空へ斜めに伸びる松の梢^{こずえ}が描かれている。その鉄の細く伸びやかな描線がのどかである。

失われてしまった全体図を想像すれば、空高く伸びる松が幾本か描かれていたにちがいない。唐津湾に沿って続く虹の松原の松を写したものだつたかもしれない。そして、いつしか皿は破壊されて一つの断片だけが残された。

ところが、この断片を眺めていると渚伝いに湾の果てまで続く松原やはるか彼方へと広がる霞^{かすみ}の空が今でもありありと目に浮かんでくるし、松の梢をわたる松風の音や玄界灘^{げんかいなだ}の荒波^{あらかみ}の轟^{とどろ}きが鮮やかに聞こえてくる。(ホ)、仮に大皿が無傷のまま残されていたとして、そこに描かれた完全な絵をまのあたりにするよりも、この断片を前にして心の中に想い描く松原や空、空耳に聞く風や波の音の方がはるかにいきいきとしている

と思われるのはどうしたことか。

皿も絵も破壊され一つの断片として残ることによって、皿に描かれていた完全な絵をはるかに超える絵を人々の心の中に得ることができたのではなかったか。たしかに完全な姿で残っていれば、実用にもなったであろうし値打ちも断片に数倍したにちがいない。その実用や値打ちを失うことによって、⁵いいかえると⁶に成り果てることによって松の絵は完全な絵以上のものになった。存在そのものを賭けた、こうした命がけの逆説がこの世界ではしばしば起こる。

言葉もまた例外ではない。(注5)「わせの香や分け入る右は有そ海」「ほととぎす大竹藪^{たけやぶ}をもる月夜」という句の「わせの香」「ほととぎす」も意味を切断され断片となることによって生かされた言葉なのである。

(長谷川權『俳句的生活』による)

(注1) バベルの塔の話Ⅱ『旧約聖書』の「創世記」に登場する物語。人間が神に近づくために天まで届く塔を建設しようとしたところ、神の怒りに触れ、人々の言葉が混乱し、互いに言葉が通じ合わなくなつて、建設を中断したというもの。

(注2) 風雅Ⅱ俳諧。

(注3) 切れⅡ切れ字。

(注4) 貫乳Ⅱ陶磁器の釉薬(うわぐすり)の表面にできた細かなひび割れ。

(注5) 「わせの香や分け入る右は有そ海」Ⅱ松尾芭蕉の発句。「わせ」は「早稲」に同じ。「有そ海(有磯海)」は富山県にある歌枕の地。次の「ほととぎす大竹藪をもる月夜」も芭蕉の発句。

問1 傍線部 a・b の漢字の読みとして最も適当なものを、各群の①～⑤のうちから一つずつ選びなさい。〔解答番号 a Ⅱ 16、b Ⅱ 17〕

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| a 「陥」 | ① つけい | ② たちい | ③ たえい | ④ おちい | ⑤ さしい |
| b 「剝」 | ① は | ② そ | ③ も | ④ つ | ⑤ ぬ |

問2 空欄（イ）（ホ）を補うのに最も適当な語を、次の①～⑥のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。（同じ番号を二度以上選んではいけません。）〔解答番号 イ 18、ロ 19、ハ 20、ニ 21、ホ 22〕

- ① それはそれとして ② そこどころか ③ しかしながら ④ そればかりか ⑤ ということは ⑥ となると

問3 傍線部A「それ」、B「これ」、C「それ」の指示語が指す語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 23〕

- | | | |
|------------|-----------|----------------|
| ① A 言葉の左半球 | B 言葉の風味 | C 言葉の風味で成り立つ世界 |
| ② A 言葉の左半球 | B 言葉の風味 | C 俳句や短歌や詩など |
| ③ A 言葉の左半球 | B 論理以外のもの | C 言葉の風味で成り立つ世界 |
| ④ A 言葉の意味 | B 言葉の風味 | C 言葉の風味で成り立つ世界 |
| ⑤ A 言葉の意味 | B 論理以外のもの | C 俳句や短歌や詩など |

問4 傍線部甲「腑に落ちる」、乙「殺し文句」の意味として最も適当なものを、各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選びなさい。

〔解答番号 甲 24、乙 25〕

甲「腑に落ちる」

- ① 焦点が合う
② 引導を渡す
③ 理屈に合う
④ 口火を切る
⑤ 合点がいく

乙「殺し文句」

- ① 相手の心を強く惹きつける言葉
② 相手の心を踏みにじる言葉
③ 相手を翻意させてしまう言葉

- ④ 相手を巧みに説き伏せる言葉
⑤ 相手に誤解を与えてしまう言葉

問5 傍線部1「言葉の論理性」とほぼ同じ意味で用いられている本文中の言葉を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 26〕

- ① 理論 ② 文脈 ③ 風味 ④ 散文 ⑤ 形式

問6 傍線部2「予が風雅は（ ）のごとし」の空欄（ ）を補うのに最も適当な四字熟語を、次の①～⑤のうち一つ選びなさい。

〔解答番号 27〕

- ① 夏炉冬扇 ② 風流三昧 ③ 空中楼阁 ④ 因果応報 ⑤ 馬耳東風

問7

傍線部3 『そうだ 京都、行こう』というJR東海の広告コピー」について、筆者はどのように考えていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 28 〕

- ① この広告コピーは、静かな響きをもった言葉である点では俳句に似ているが、社会的に絶大な影響力を持っている点で、俳句とは異なっている。
- ② この広告コピーは、静かな響きをもった言葉である点では俳句に似ているが、意味の言葉である上に、言葉の風味も感じられる点で、俳句とは異なっている。
- ③ この広告コピーは、言葉の分量が少ない点では俳句に似ているが、読み手に言葉の意味を伝えることを目的としたものである点で、俳句とは異なっている。
- ④ この広告コピーは、言葉の分量が少ない点では俳句に似ているが、五・七・五の形式ではなく、俳句特有の言葉の風味も感じられない点で、俳句とは異なっている。
- ⑤ この広告コピーは、言葉の分量が少ない点では俳句に似ているが、つぶやいた言葉でありながら社会的に絶大な影響力を持っている点で、俳句とは異なっている。

問8 傍線部4「唐津焼の小さな断片」について、筆者はどのように述べていますか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

一つ選びなさい。〔解答番号 29〕

- ① 唐津焼の断片は、割れる前の大皿にはあらゆる点で及ばないものの、それでも失われてしまった全体図を想像すれば、風や波の音が聞こえてくるような気がする。
- ② 唐津焼の断片は、断片ではあるとはいえ、幸い、中空へ斜めに伸びる松の梢が描かれていることで、全体図を想像するのは容易であり、掌サイズなので手軽でよい。
- ③ 唐津焼の断片は、割れる前の大皿なら聞こえないような風や波の音が生き生きと聞こえてくるという、断片ならではの不可知の作用力と不思議な魔力を持っているようだ。
- ④ 唐津焼の断片は、大皿の断片であるがゆえに、散文を縮約した俳句と似ていて、その小さな絵柄の中に完全な絵をはるかに超えた風景を生き生きと想像させる力を持っている。
- ⑤ 唐津焼の断片は、割れる前の大皿が有していた実用性と値打ちを喪失した代わりに、これを眺める者の想像力を刺激し、はるかな心象風景を生み出すことに成功している。

問9 傍線部5「いいかえると（ ）に成り果てる」の空欄（ ）を補うのに最も適当な本文中の語句を、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 30〕

- ① 広告のコピー
- ② 無意味なもの
- ③ 首飾りの糸
- ④ 純粹な意味
- ⑤ 怒りと失笑

問 10 傍線部 6「逆説」とありますが、逆説を含むことわざとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 31〕

- ① 灯台下暗し^{もと}
- ② 釈迦^{しやか}に説法
- ③ 二階から目薬
- ④ 漁夫の利
- ⑤ 論語読みの論語知らず

問 11 筆者の考えに基づいて、本文中の芭蕉の発句「ほととぎす大竹藪をもる月夜」を鑑賞したものとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選びなさい。〔解答番号 32〕

- ① ほととぎすが鳴いている大竹藪を漏れて月の光が差し込んでいるという情景を詠んだもので、ほととぎすと月との組み合わせが絶妙である。
- ② 切れ字は使われていないけれども、「月夜」という体言止めが切れ字の働きを担って、ほととぎすの鳴く竹藪に深い余韻を漂わせている。
- ③ 「ほととぎす」と「大竹藪」が文法的に結びつかないため、意味が切断されるが、それがかえって発句特有の風味と俳味を作り出している。
- ④ 「ほととぎす」でいったん切れることで、ほととぎすの鳴き声が心の中に響き、さらに、大竹藪を漏れて月の光が差し込む情景が想像される。
- ⑤ ほととぎすが鳴いている大竹藪を漏れて月の光が差し込んでいるという内容を切り詰めた句で、唐津焼の断片と同じく想像力を刺激する。